



2024/11/27

GFSIの到達点と今後

GFSI日本ローカルグループ事務局
CGFジャパン 大久保力

自己紹介



氏名： 大久保 カ（オオクボ ツトム）
所属： The Consumer Goods Forum (CGF), Japan
担当： GFSI日本ローカルグループ
役職： シニアマネージャー

職歴：1989年 キリンビール(株)入社、研究開発部門でビールの商品開発
1992年 米国カリフォルニア州のワイナリーでブドウ栽培、ワイン製造
1996年 ビール工場パッケージング部門
2000年 海外事業部門でビールの海外生産、事業開発
2006年 小規模ビール工場の管理全般
2008年 ビール工場品質保証部門
2011年 コーポレートの品質保証部門
2014年 清涼飲料工場製造部門
2015年 コーポレートの技術系人材育成部門
2021年 現職(キリンホールディングスからの出向)
2024年 CGF Japanへ転職

本日の内容

- **GFSIの概要 +
食品安全第三者認証の仕組みとGFSIの役割**
- **GFSIが取り組んでいる食品安全の課題**
- **今後の認証規格改訂の方向性
(GFSIベンチマーク要求事項改定案のポイント)**

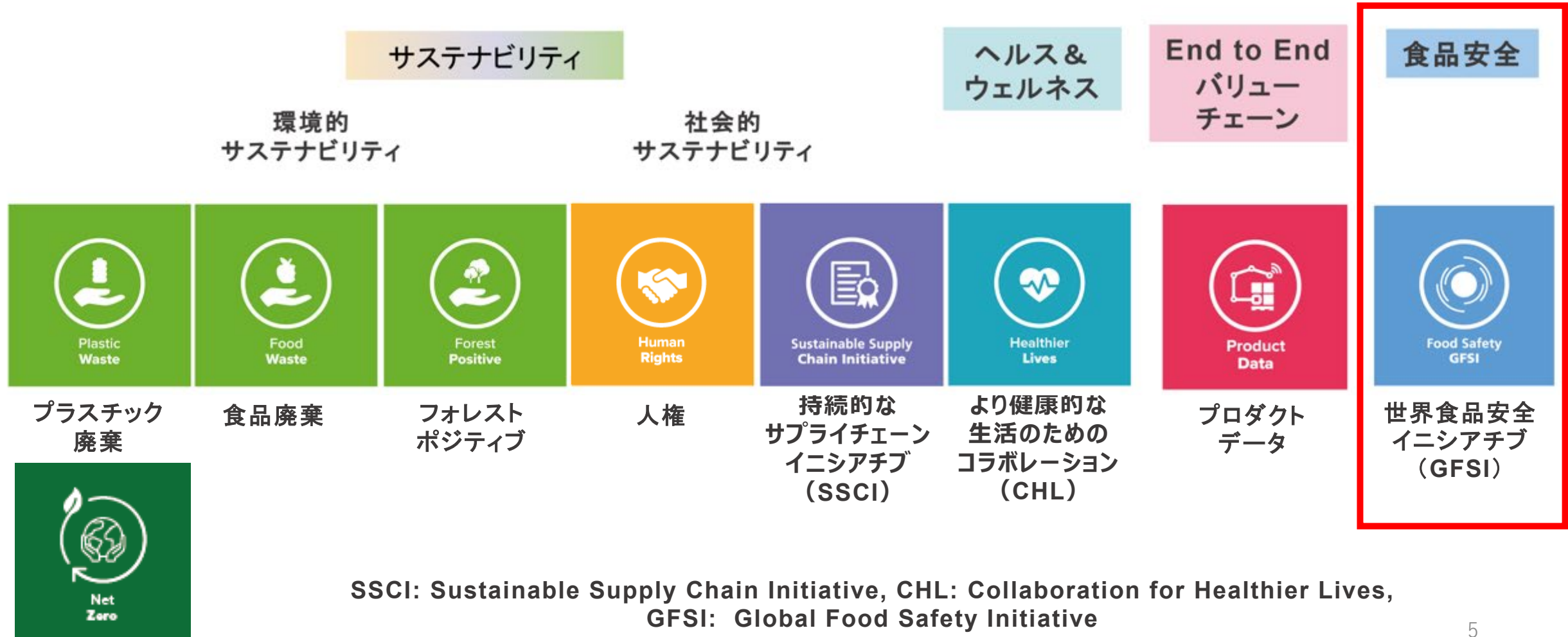
ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）

- 2009年に、「CIES -The Food Business Forum」（国際チェーンストア協会）、「Global Commerce Initiative」（GCI：標準化推進団体）、「Global CEO Forum」という3つの組織が合併して設立されました。
- 世界中の消費財のリテラーとメーカーを結集する唯一の国際的な消費財業界団体で、世界の消費財企業とサービスプロバイダーを中心に、約400社（70カ国以上）が加盟しています。
- CGF会員企業の総売上高は600兆円以上、直接雇用者は約1,000万人です。
- 非競争分野における4つのピラー（社会的・環境的サステナビリティ、食品安全、ヘルス & ウェルネス、E2E バリューチェーン）の下に9つの行動連合、1,500人を超える専門家と30以上のグローバルと地域のワーキンググループと専門プロジェクトで組織構成し、業界共通の課題に取り組んでいます。
- 59名のCEOからなる理事会が運営しており、日本からも3社※が理事メンバーとなっています。
※味の素、イオン、キリン
- 日本からは、小売企業、食品メーカー、消費財メーカーを中心に64社が加盟しています。

CGFの戦略的組織と活動



9つの**行動連合**を編成し、
非競争分野における戦略的課題に取り組んでいます。



GFSIの設立の経緯



1990年代、世界中でBSE、ダイオキシン、リステリア菌による汚染など、深刻な食品事故が相次ぎ、リコールが多発しました。また、世界中では約400もの食品安全に関する認証規格が乱立し、食品事業者、特に製造現場では度重なる監査で時間・コストの負担が増え、疲弊していました。

原材料の調達や食品の流通がグローバル化する中、世界の経営者たちは安全な食品を消費者に確実に提供するため、これらの問題を連携して解決することに合意し、2000年5月にGFSI(Global Food Safety Initiative)が設立されました。

1990年代

食品安全を脅かす
事故、リコールの
多発

認証規格乱立による
監査の重複、現場の
疲弊

連携したアクションの必要性を経営者達が合意

2000年

CIES※の1活動としてGFSI発足

※ CIES - The Food Business Forum (国際チェーンストア協会)
“The Consumer Goods Forum” (ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム)の前身の組織

○GFSIのビジョン

Safe food for people everywhere

すべての人々に安全な食品を提供する

○ミッション

世界中の消費者へ安全な食品を確実に届けるために、**食品安全マネジメントシステムの継続的改善**を行う。

○戦略

- ・食品安全認証プログラムの規格を**調和**させ向上させる。
- ・グローバルな食品サプライチェーン全体で**食品安全能力を向上**させる。
- ・食品安全規制当局・政府間組織と食品産業との**官民連携**を進める。

第三者認証の仕組みとGFSIの役割

【認証プログラムオーナー(CPO)】

CPO: Certification Program Owner



JFSM
(食品安全マネジメント協会)
FSSC財団
SQFI
JGF (日本GAP協会)
GLOBALG.A.P.
...

GFSIベンチマーク要求事項



審査・登録・管理

契約



第三者認証

利害関係のない第三者による
公平・公正な評価

認定

公平・公正な「認証」を行う
力があるかどうかを確認

食品安全マネジメントシステム
の構築・運用

食品安全認証プログラム
の活用



審査・認証
維持審査

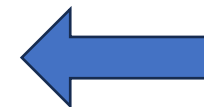
【食品事業者(FBO)】

FBO: Food Business Operator



【認証機関(CB)】

CB: Certification Body



認定



【認定機関(AB)】

AB: Accreditation Body

JAB
(日本適合性認定
協会)



GFSIの戦略



世界の食品安全認証プログラムの水準を揃え、
食品安全マネジメントの全体的なレベル向上と
継続的な改善を実現する。



認証プログラムオーナー (CPO)

CPO: Certification Program Owner



”GFSIベンチマーク要求事項”

認証プログラムのマネジメント
および認証プログラムに含ま
れる内容について定めた基準



- JFSM
(食品安全マネジメント協会)
- FSSC財団
- SQFI
- JGF (日本GAP協会)
- GLOBALG.A.P.

- ✓ CPOの認証プログラムに対し、第三者の専門家によるベンチマークを実施。
- ✓ すべての要求事項が満たされていれば、GFSI承認 (recognition)が得られる。
- ✓ MyGFSI(公式ウェブサイト)上で公表され、国際水準を満たした認証プログラムと認知される。

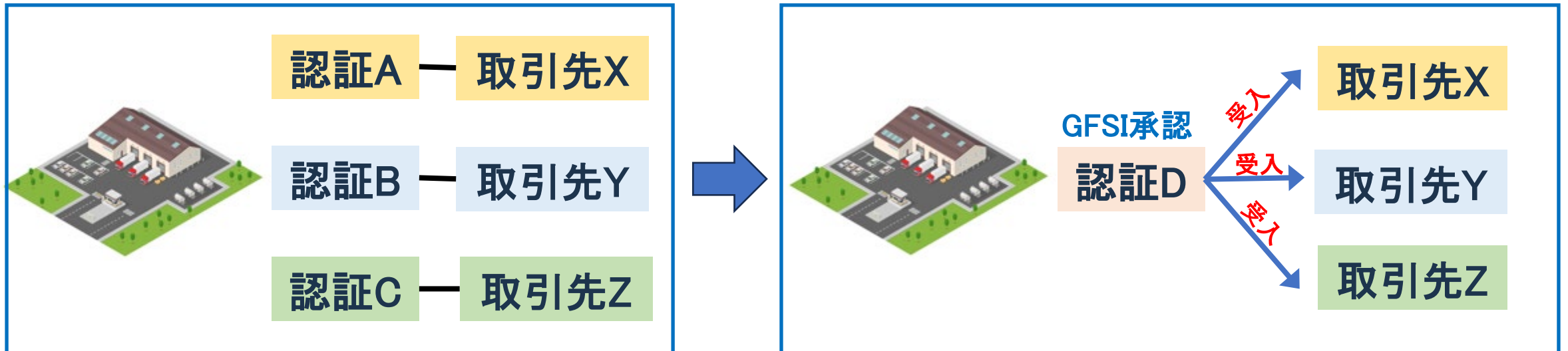
GFSIの戦略



Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

”GFSIベンチマーク要求事項”を満たす認証プログラムを公表し、それらをどれか一つ取得すれば、世界の全てのステークホルダーに認められる状態を目指す。



GFSIの戦略



Once Certified, recognized Everywhere

いったん認証されれば、どこでも受け入れられる

【GFSIが承認した認証プログラムを有するオーナー一覧】

ASIAGAP

BRGS

CANADAGAP

FSSC 22000

Freshcare

Global Seafood Alliance

GLOBAL G.A.P.

GRMS
GLOBAL RED MEAT STANDARD

GRMA
GLOBAL RETAILER AND MANUFACTURER ALLIANCE

IFS
International
Featured Standards

jfsm

primus GFS

SQF
INSTITUTE

GFSIに対する3つの誤解

誤解1 GFSIが食品事業者に対して認証を行なっている。 ❌

「GFSI認証」という言葉を見聞きすることがあるように、GFSIが認証を行なっているという誤解が存在します。認証プログラムを保有しているのは認証プログラムオーナー（CPO）、認証を行うのは認証機関（CB）です。GFSIは各認証プログラムのベンチマークは行いますが、**自ら認証プログラムを保有したり、認証を提供することは行っていません。**

誤解2 GFSIは認証プログラムオーナー（CPO）を承認している。 ❌

GFSIは、CPOから申請のあった**個別の認証プログラム**をGFSIベンチマーク要求事項に基づいて評価し、そのプログラムに対して承認を与えています。CPOを承認することで、そのCPOが保有する認証プログラムがGFSI承認となるのではありません。例) JFS-C：GFSI承認、JFS-B：GFSI承認なし

誤解3 GFSIが承認した認証プログラムの認証を取得すれば二者監査をやらなくて良い。 ❌

GFSIが承認した認証プログラム（第三者認証）は**食品安全**のための要求事項を提供しています。一方、二者監査では個別製品の品質を含む**顧客／ブランドの差別化要因**なども監査対象に含まれます。よって、第三者認証の取得は二者監査の食品安全部分の効率化にはつながりますが、二者監査全体を省略できることにはなりません。GFSIでは、第三者監査と二者監査はお互いに補完的役割を果たすものであるという見解書を発信しています。

<https://mygfsi.com/wp-content/uploads/2023/07/GFSI-position-the-role-of-third-party-certification-20210517-CLEAN-ja-1.pdf>

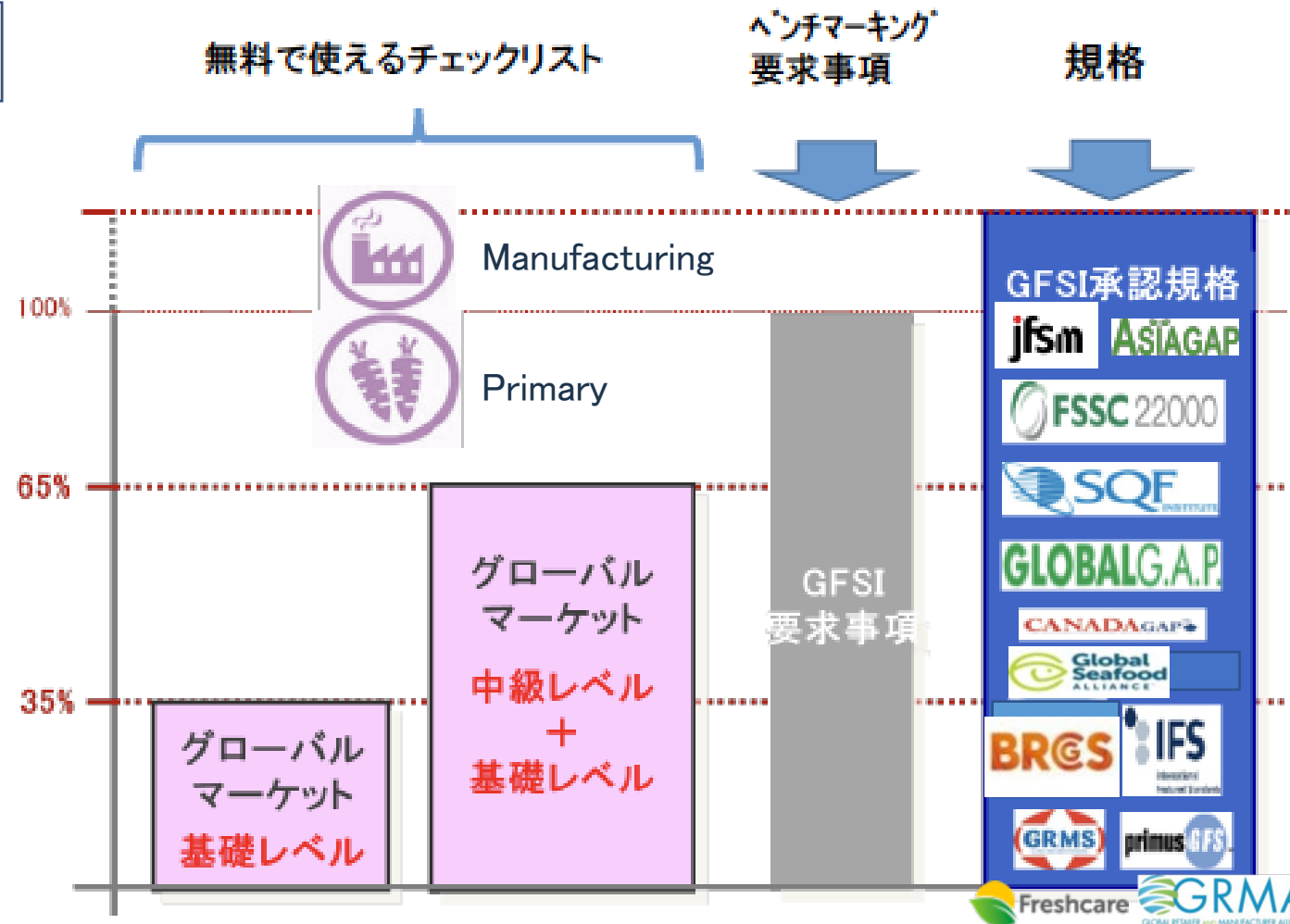
GFSIの戦略



グローバルマーケットプログラム (GMaP)

2008年初版
2023年11月改訂版発行

- ・段階的にGFSI承認食品安全規格の取得を目指すプログラム
- ・一次生産と小規模食品製造者あるいはこれから発展する企業が対象
- ・食品安全マネジメントシステム構築のための自主的なツール
- ・より安全な食品の製造と市場獲得に向けたロードマップ
- ・小売業者やメーカーによる取引先の監査でも活用されている事例あり



本日の内容

- GFSIの概要 +
食品安全第三者認証の仕組みとGFSIの役割
- **GFSIが取り組んでいる食品安全の課題**
- 今後の認証規格改訂の方向性
(GFSIベンチマーク要求事項改定案のポイント)

GFSIの取り組み課題



① 食品安全マネジメントシステムの継続的改善

- ・GFSIベンチマーク要求事項の定期的改訂 → 後述

② 食品安全の能力構築

- ・グローバル・マーケット・プログラム (GMAP) の展開
- ・2023年 USAID (アメリカ合衆国国際開発庁) との覚書締結 → アフリカにおける能力構築での連携

③ 認証プラットフォームの開発

- ・プロジェクト「ORRC」が進行中。 ‘Online Repository[※] of Recognised Certificates’ の略。 ※Repository: 収納場所
- ・GFSI承認規格の取得全サイトの認証情報を収納し、関係者が無料で確認できるようにする。

④ 監査員のトレーニングと専門能力開発 (ATPD[※]) ※Auditor Training and Professional Development

- ・世界的な監査員 (審査員) 不足への対応、および監査の質の確保・向上が目的。
- ・専門能力開発のフレームワーク (案) を作成し、9～10月にパブリック・コンサルテーション (意見募集) を実施。
- ・本年12月末までの公開を目標に作業を継続中。

本日の内容

- GFSIの概要 +
食品安全第三者認証の仕組みとGFSIの役割
- GFSIが取り組んでいる食品安全の課題
- **今後の認証規格改訂の方向性**
(GFSIベンチマーク要求事項改定案のポイント)

GFSIベンチマーク要求事項改訂案

【改定案のポイント】

- ◆ **GFSIベンチマーキング・プロセス**： 適格性基準、プロセス全体の期間、役割と責任、エスカレーションプロセス、制裁プロセスの強化。
- ◆ **アレルギー管理**： アレルギー管理計画を強化するための体系的検証の導入。
- ◆ **食品安全文化**： 食品安全マネジメントシステムに「食品安全文化」の用語を取り入れ、その重要性を具体的に呼びかける。
- ◆ **マルチサイト認証** 注)： 認証審査における本社中枢機能とマルチサイトアプローチの明確な区別、認証プロセスの明確性と有効性の向上。
注) 対象は一次生産と保管・配送サービス
- ◆ **コーデックスとの整合**： コデックス「食品衛生の一般原則」最新版との整合性を図るための更新を行い、国際的な食品安全基準との整合性を確保する。

ご清聴いただき、ありがとうございました。